

平成14年4月25日
原子力安全対策課
(14 - 18)
<16時00分記者発表>

新型転換炉ふげん発電所の手動による緊急停止について (漏えい燃料特定調査の進捗状況)

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所は、平成14年1月7日から第17回定期検査に着手し、4月12日から調整運転を開始していたが、定格出力で調整運転中の4月17日、希ガスホールドアップ装置の活性炭吸着塔入口ガスモニタの指示値が上昇し、2つループ(A、B)あるうちAループに装荷されている燃料集合体が漏えいしていると判断されたが、モニタの指示値等が十分に低い値で安定していたため、監視を強化して運転を継続していた。

4月21日10時55分頃から衛帯蒸気排気配管放射線モニタの指示値が上昇し始め、同日11時30分頃、希ガスホールドアップ装置活性炭吸着塔入口ガスモニタ、その後、排気筒ガスモニタの指示値も上昇していることが確認されたため、同日12時31分、原子炉を手動により緊急停止した。

排気筒ガスモニタ指示値からの希ガス放出量を算出した結果、 1.2×10^{10} Bqであった。これは、保安規定に定めた年間放出管理目標値(5.1×10^{14} Bq)の約43000分の1である。また、環境のモニタリングポスト等の指示値にも変化はなく、今回の事象における環境への放射能の影響はなかった。

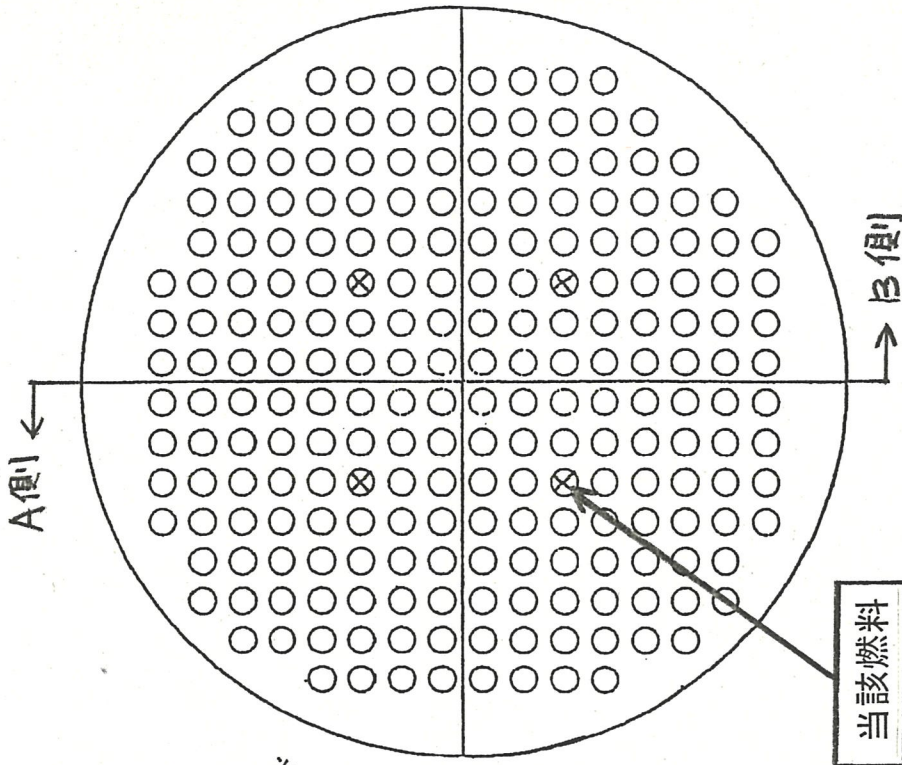
なお、4月22日12時31分までのよう素追加放出量測定の結果では、追加放出量は 1.1×10^{11} Bqで、保安規定に定める基準値(7.4×10^{13} Bq以下)の約700分の1で問題はない。

*1 追加放出量…炉停止以降の冷却材圧力降下に伴う燃料から冷却材中への放出量

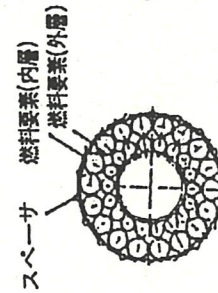
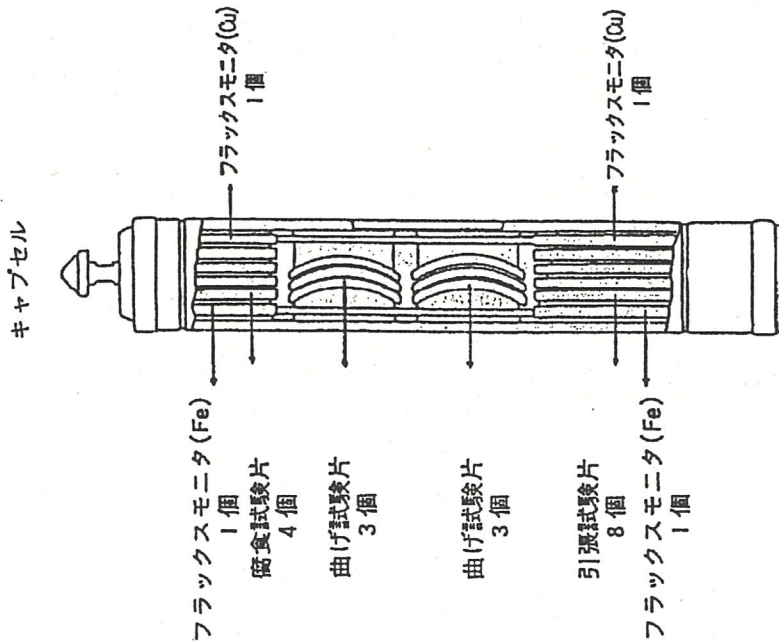
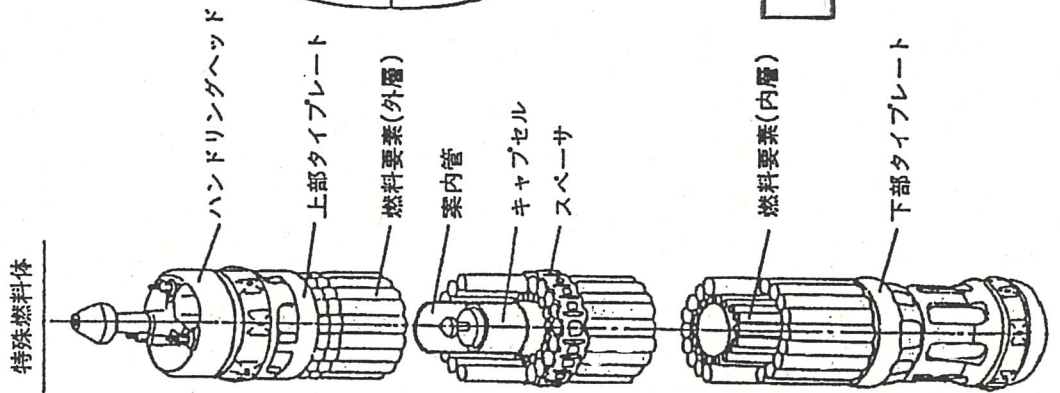
[平成14年4月18日、21日、22日発表済み]

4月22日から、Aループ側に装荷されている112体の燃料集合体について、破損燃料検出装置により個別燃料集合体が入っている圧力管内の1次冷却水の放射能濃度測定を行っているが、これまでの測定で、1体の燃料集合体(特殊燃料)について漏えいしている可能性が強いことが確認できた。このため当該燃料集合体については、今後、使用済燃料貯蔵プールへの取り出し作業を行うとともに、漏えい燃料集合体の特定調査を継続する予定である。

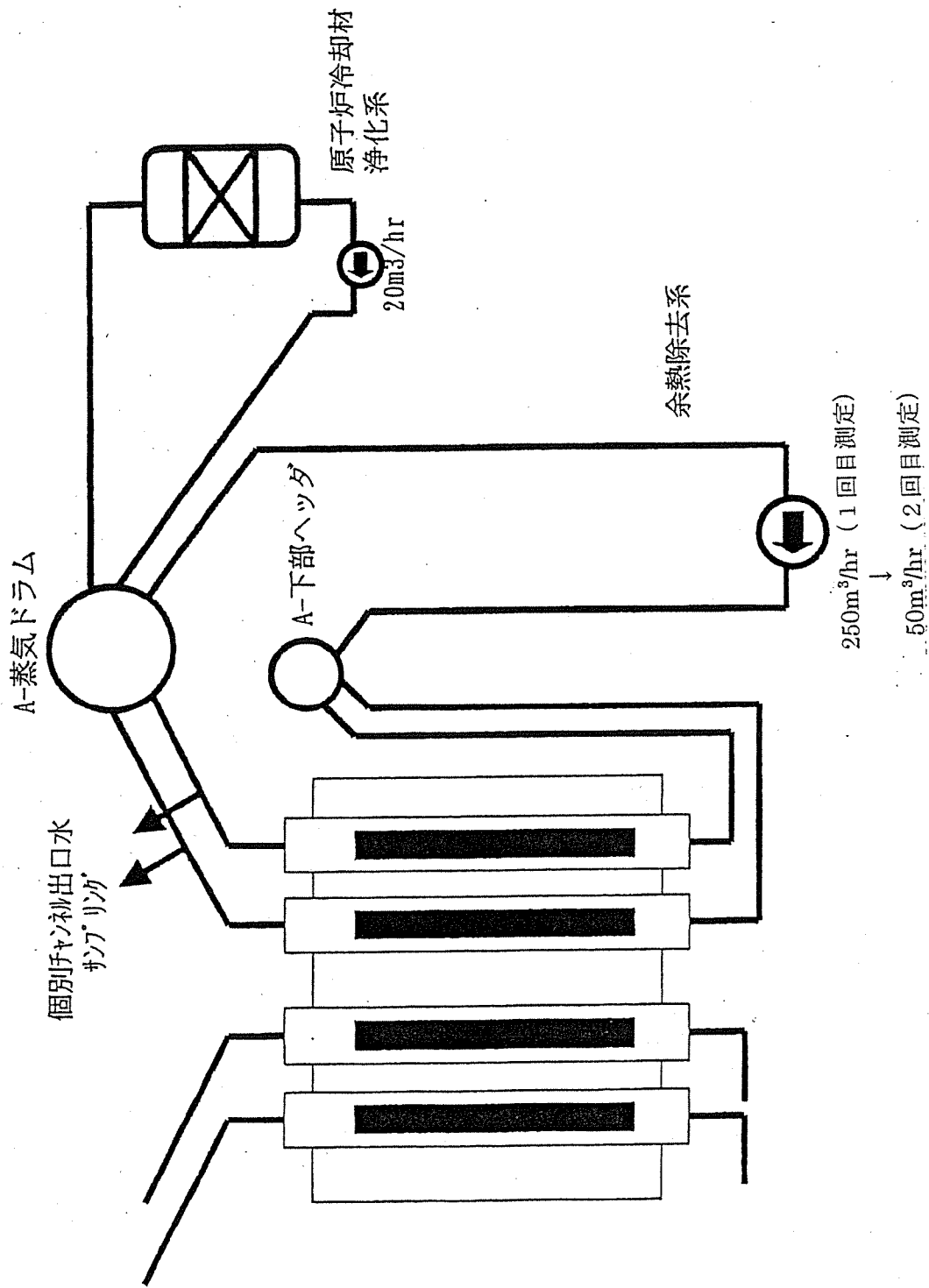
問い合わせ先 内線2354 直通0776(20)0314



記号	名称	数(体)
○	標準燃料体	220
⊗	特殊燃料体	4



特殊燃料集合体の構造と炉心配置



個別シッピング時の系統構成